



米の需給・価格安定化などに向け、意見書採択運動を実施

道農連は、6月における市町村の定例議会に向けて、「米の需給・価格安定対策と米政策の見直しに関する意見書」などの意見書採択運動に取り組んでいる。

我が国においては、依然として新型コロナの感染収束が見通せず、各種イベントの中止や飲食店の営業自粛などで米や乳製品、小麦、小豆、砂糖などの農畜産物の需要減退が続いており、早急な需要喚起対策が求められている。

特に、米をめぐる人口減少による消費減退が避けられないなか、コロナ禍による中食・外食需要の減退に加え、主産地の豊作も相まって滞留在庫が深刻化している。さらに、国が示す適正生産量に対し、各県が設定した目安の合計が上回っていることから今年産も過剰作付が懸念されており、作柄次第ではより一層の米価暴落の恐れがあった。

このため、意見書のひな形では、①新型コロナ等の影響による需要減少分に対して国が政府備蓄米を追加で買い上げるなど市場隔離等を行うこと。また、備蓄米を生活困窮者やこども食堂などへの支援の拡充、ODAを活用した援助等に活用するなど、国民の理解が得られる運用改善を図るとともに、米の消費拡大対策を早急に講ずること、②国の関与無しで需給環境の改善を図ることは不可能であるため、早急に現状の米政策を検証するとともに、食糧法に基づき国が責任をもって見直しを行い、実効性のある対策を講ずることの2項目を求めている。

なお、3月の議会対策で取組んだ「コロナ禍における地域経済の活性化と米価暴落対策を求める意見書」において、時間的に対策が間に合わなかった地域については、改めて採択対策に取り組むか、または今回の米の意見書採択のいずれかに取り組むこととしている。

各地区事務局会議をリモートとの併用で開催

道農連は、5月12日の各地区事務局会議を新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リモートとの併用で開催した。会議では、基本農政対策の政策提言項目のたたき台や、業態別の春闘対策の組織討議素案などについて協議した。

5月の活動記録（上記以外）

- 19日 道農連女性書記の会幹事会（リモート）
- 21日 道農業再生協議会第1回水田部会
- 25日 AS I AGAP研修会（北見地区農連）
- 26日 道農産協会企画調整部会（リモート）

6月の活動予定

- 1日 第2回酪農・畜産対策委員会
- 4日 第2回米・水田農業対策委員会
- 7日 第2回畑作・野菜対策委員会
- 23日 三役会議
- 24日 第3回執行委員会・第1回真の農政改革実現対策委員会合同会議

◎詳しくは、「北海道農村新聞」（年間購読料1,800円・税込）をご覧ください。

お申し込み・お問い合わせは、道農連事務局（TEL011-241-5416）まで。

道農連 HP はこちら ⇒ <http://donouren.sakura.ne.jp/>

